

自動車、家電、医薬品、たばこ…… ビジネス界でも 存在感を示す 日本企業。

数 年前、久方ぶりに首都キーウを訪れたときのことだ。ホテルのそばで通りを渡るうとすると、「プリウス」の白いパトカーが親切に止ってくれた。私は以前、そのハイブリッド自動車のメーカーに勤めていた。「どうもありがとう」親しみを込めてその声をかけると、

フロントガラス越しにフレンドリーな笑顔が返ってきた。

二〇一四年二月のマイダン政変から、早や三年以上が過ぎていた。東へ六〇〇キロほど離れたロシア国境に近いドンバスでは、親ロシア派勢力との戦いが散発的につづいていて、私の滞在中も三人のウクライナ兵士が犠牲になった、市民の心はずつかり欧州へ向いて、ロシアに背を向けて吹っ切れたように明るかった。

世界に名だたる 日本ブランドが進出

『海外進出企業総覧 2023年版』(東洋経済新報社)によれば、ロシアによる侵攻後の二〇二二年十月調査時点で、ウクライナへ進出(現地法人出資)

「イス」している日本企業は非上場を含めて十五社を数える。

その多くは販売・サービス業で、大手商社がそろってキーウに事務所を構えている。そして、スバル、マツダ、スズキ、トヨタ、三菱や日産などの自動車や、コマツの建設機械や鉦山向けの大型タンブカーの輸入代理店が設立され、電動工具・計測器ではマキタ、横河電機、家電・エレクトロニクスではパナソニック、ソニー、またカメラ・コピー機では富士フイルム、コニカミノルタ、キヤノンなどが、それぞれメーカー直営で輸入・販売をおこなっている。

いずれも世界に名だたる日本ブランドだ。

冒頭で紹介した「プリウス」のパトカーも、トヨタに代わって車を販売する住友商事の計らいで、ウクライナ内務省がグリーン投資スキーム(国際的な排出権取引の枠組み)を活用して、二〇一三年春から数回に分けて合計千二百台ほど購入したものだ。

製造業への投資もすすんでいる。たとえば、住友電気工業、矢崎総業とフジクラが、西ウクライナの工業団地で自動車用のワイヤーハーネス(電線を束にした配線部品)を生産していることは、業界ではつとに知られている。

ポーランドやスロバキア、ハンガリー

西谷公明・文、写真

text & photographs by Tomoaki Nishitani
にしたに ともあき エコノミスト。1953年東京生まれ。84年早稲田大学院経済学研究所博士前期課程修了(国際経済論専攻)。長銀総合研究所、在ウクライナ日本国大使館専門調査員を経て99年トヨタ自動車入社。2004~09年ロシアトヨタ社長、兼モスクワ駐在員室長。欧州本部BRロシア室長などを歴任し、12年国際経済研究所取締役・理事。18年N&Rアソシエイツ設立、代表就任。近著に「ウクライナ 通貨誕生」「ロシアトヨタ戦記」。

下・キーウのまちにはトヨタが製造するプリウスのパトカーが走っている

と陸路でつながる西ウクライナのリヴィウやザカルパティア(「カルパティア山脈を越えた向こう側」の意)は、いまだに欧州のサブプライチエーションと一体だ。広い国土の西のほうは、国境近くに輸出振興型の経済特区が整備され、ポツシユ(独)やレオニ(独)、ネクサンス(仏)などのグローバル企業も進出して、欧州向け自動車部品の一大生産拠点と化している。

また、医薬品では武田薬品が進出しているし、中部の工業都市クレメンチユク(巨大な石油精製プラントがあることで知られる)には日本たばこ(JT)の工場もある。

他方、黒海に面する港町のオデッサでは、楽天がメッセ「アジアブリ」(Vista Fair)を運営して、電子商取引や映像配信をはじめている。

日本企業の草分け「兼松」と 北米ウクライナ移民の活躍

一九九一年十二月の独立後、日本企業としていち早くキーウに事務所を開いたのは、総合商社の兼松だった。

当時、私はウクライナ最高会議の経済改革管理委員会に招かれて、九二年の春から秋まで半年間キーウに滞在して、連年崩壊後の経済の現場を視察し、独立したばかりの国づくりの課題を調査していた。大使館もない頃で、

ウクライナに現地法人を持つ主な日本企業一覧

社名	業種	現地法人	
		企業名	業務内容
伊藤忠商事	卸売業	Auto International	マツダ車・スズキ車の輸入・販売
キヤノン	電気機器	Canon Ukraine LLC	全事業製品の販売
富士フイルム	化学	FUJIFILM Ukraine LLC	電子映像製品の販売
コニカミノルタ	電気機器	Konica Minolta Ukraine	複写機、資材等の販売
アウトソーシング	サービス業	LLC Otto Workforce	コンサルティング事業、業務請負
住友商事	卸売業	Toyota Ukraine	トヨタ車の輸入・販売
		LLC Summit Motors Ukraine	トヨタ車の小売販売、補修サービス
		Sumitec Ukraine	コマツ建機・トヨタフォークリフトの輸入・販売
		TOV Spektr-Agro	農業・種子・肥料等の農業資材の販売
マキタ	機械	Makita Ukraine LLC	電動工具等の販売
三菱商事	卸売業	MMC Ukraine LLC	三菱車の輸入・販売
パナソニック	電気機器	Panasonic Ukraine Ltd.	家電、システム商品の販売
住友電気工業	非鉄金属	SE Bordnetze-Ukraine TOV	自動車用ワイヤーハーネスの製造・販売
双日	卸売業	Subaru Ukraine LLC	スバル車の輸入・販売
武田薬品工業	医薬品	Takeda Ukraine LLC	医薬品の販売
矢崎総業	非鉄金属	Yazaki Ukraine LLC	自動車用ワイヤーハーネスの製造・販売
横河電機	電気機器	Yokogawa Electric Ukraine Ltd.	工業計器、計測器の販売・エンジニアリング
丸紅	卸売業	ZAMine Services Ukraine LLC	日立建機鉦山機械の輸入・販売

『海外進出企業総覧 2023年版』(東洋経済新報社)より
※企業により情報開示が異なるため、すべてをカバーしているわけではない





上・筆者が住んでいたプーシキン通りの住宅。
下・2014年にキーウを訪れた際、ウクライナ系カナダ人の旧友バフダンとともに
レストランを訪れた筆者。壁のメニューに「クリミアは私たちの物」と書かれていた



photographs : Tomoaki Nishitani SEPTEMBER 2023 東京人 122

キーウにいる日本人ビジネスマンは、兼松の所長と私のふたりきりだった。

ある日、所長宅へ招かれて、日頃の苦勞話に花を咲かせた。深夜十一時過ぎ、遠い日本に思いを馳せながら「石原裕次郎」を聴いていたら、突然停電した。訊けば、この一週間、お湯が出ないので髪も洗えないでいると言っているのか。断水に備えて、浴槽やポリバケツに水が溜めてあった。

兼松の事務所は、大統領府からほど近い軍需工場「アルセナル」内の一角

にあった。軍民転換の流れに乗って、

ミシン製造の合弁事業に乗り出す計画だった。だが、パートナーに突然、契約を反故にされて頓挫した。所長の口惜しさは如何ばかりだったかと思う。ロシアが原油価格を引き上げたため、経済は激しいインフレに見舞われていた。外出時には分厚いクーポン（独立後、ルーブルに替って発行された暫定通貨）の束をいくつもビニール袋に入れて持ち歩いたことも、懐かしい記憶である。その後、一九九六年四月から九九年

三月まで、今度は外務省が派遣する専門調査員として日本国大使館に勤務した。ハイパーインフレも収まって、赴任した年の六月には新憲法が施行され、つづいて九月には晴れて新通貨「フリブナ」が発行された。

アメリカやカナダからウクライナ系移民（ディアスポラ）の血をひくおおぜいのビジネスマンが、デューボンやカーギルなどグローバル企業のカントリー・マネージャーとして祖国へ帰還し、市場経済の伝道師よろしくビジネ

ス界で活躍していた。さまざまな援助

機関から、政府のアドバイザーとして派遣されたエキスパートも数多くいた。彼らの多くは流ちょうなウクライナ語を話し、現地社会に難なく溶け込んでいた。皆、家族と一緒だった。このときは私も妻と幼い三人の子どもを帯同した。子どもたちの教育のために、皆で学校も運営した。基金集めのパーティーやイベントが、現地人も参加して毎週のようにおこなわれた。そこには、自由で心地よいインター

ナショナル・コミュニティがあった。

そうした歳月の積み重ねと、海を越えたウクライナ系移民との開かれた交流が、その後のウクライナ社会の安定と欧米指向に少なからず寄与したのではないかと思う。

そして、私がキーウを後にして半年後の一九九九年の十二月、在勤中に専門調査員時代に親交のあったユシチェンコ中銀総裁が首相に就任すると、翌二〇〇〇年、ウクライナは独立後はじめて国内総生産（GDP）でプラス成長（五・九パーセント）に転じたのだった。

広い国土が擁する
大きな可能性。

ウクライナ政府によれば、二〇二二年の国内総生産はマイナス三〇・四パ

ーセント。東部の一帯は焦土と化して、経済は半ば麻痺していることだろう。

だが、いまは戦禍のその広い国土は、大きな可能性に富んでもいる。ウクライナは五穀豊穡の国である。母なるドニプロー川が南北に流れ、その両岸は肥沃な黒土で厚く覆われる。ウクライナ農業の可能性について、故レスター・サロー教授は「パリのクロワッサンはウクライナ産の小麦で席捲されるだろう」と書いている（資本主義の未来）。晴れた日には、大地が文字通り、黒く輝いて見えたものだ。

また、鉄鋼業も盛んで、国内総生産の約一〇パーセント、製品は輸出の三割近くを占めている。中南部にあるクリヴィーイ・リーフ（ゼレンスキー大統領の出身地だ）の鉄鉱山は欧州最大で、

眼前にひろがる露天掘りのスケールには思わず目を瞠るほど。

ついでながら、ウクライナは天然ガスの生産国で、半導体の製造に欠かせない工業用貴ガス（ネオン、キセノン、クリプトンなど）の産地でもあるし、電気自動車（EV）のバッテリー製造に欠かせないリチウムが多く埋蔵されていることも付言しておこう。

他方、欧米企業は早くから、この国のIT人材に注目していた。政府機能のデジタル化を支えるのも、若くて有能なプログラマーたちだ。ウクライナ系カナダ人の友人は、現地人といっしょにIT企業を立ち上げて、トロントとキーウを往復している。

いまや、私たち日本人の間でも、ウクライナはすっかり身近な国になった

感がある。いずれ停戦、復興ともなれば、日本企業にとっても大いに魅力ある国になるだろう。

実は、この国の「空の玄関」、ポリースピリ国際空港は日本の政府開発援助（ODA）で建設された。

また、ドニプロー川を見下ろすコンサートホール「国立フィルハーモニー」には、同じく日本の援助で寄贈されたヤマハのグラランドピアノが置かれている。パリ在住の国際的ピアニスト、フジコ・ヘミングさんはキーウのまちがお気に入り、侵攻前は、毎年のようにそこでコンサートを開いていたそうだ。

フジコさんの奏でるショパンの調べがキーウへ戻る日のくることを、心から願いたいと思う。●